

## 2020年度第1回愛知県総合教育会議 議事録

日時：2020年7月20日（月）14:00～15:00

場所：愛知県本庁舎6階 正庁

### 【県民文化局長】

それでは、ただ今から、2020年度第1回愛知県総合教育会議を始めさせていただきます。はじめに、大村知事より、挨拶を申し上げます。

### 【知事】

それでは、2020年度の第1回愛知県総合教育会議を始めさせていただきます。お忙しい中、今日は御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

この会議は、知事と教育委員会が、教育政策の方向性を共有し、緊密に連携しながら、愛知の教育の更なる充実を図るために、2015年4月に設置したものでありまして、ちょうど5年前ということございまして、これまで、「愛知の教育に関する大綱」の策定や、「大綱」を踏まえた様々な施策について、御議論をいただいております。

この「大綱」につきましては、本県の教育に関する目標や施策の根本となる方針として、2016年2月に策定したものでございまして、今年度がその対象期間の最終年度となりますことから、今年度中に、次期「大綱」を策定する必要がございます。

そこで、本日の会議では、次期「大綱」の策定方法等につきまして協議を行っていただき、現行の「大綱」と、教育を取り巻く課題について、意見交換をさせていただければと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業などによりまして、学校現場におきましては、子どもたちの学習環境を改めて整理し直すという大きな課題と向き合っているところではありますが、こうした状況の中におきまして、これまでも増して、教育委員会と私どもが連携いたしまして、子どもたちの教育の目標や方針をしっかりと示していくことが重要になってくると考えます。

とにかく今年はかつてない状況になっておりまして、3月、4月、5月と3か月臨時休校というかつてない事態になりました。これは、戦後初めてのことでないかというふうに思いますが、そういう中で、子どもたちとどう向き合っていくかということを、今もですね、今もというか、これからのほうがもっと大変かもしれませんが、学習の遅れを取り戻していく、また、一日も早く日常の活動に戻っていくということが求められております。

そういう中で、愛知の教育の更なる充実に向け、教育委員会の皆様には、引き続き御指導、御鞭撻をいただきますようお願いを申し上げます。私からの挨拶といたします。

### 【県民文化局長】

次に、本日の出席者につきましては、お手元の名簿と配席図をもって代えさせていただきます。

それでは、ここからの進行は、本会議の招集者であります大村知事をお願いいたします。

### 【知事】

先ほど申し上げましたが、臨時休校によって、今年、子どもたちの数というのは、愛知県は小・中・高で82万人おります。学校の先生方が5万数千人おりますので、そういう意味ではですね、その皆さんがですね、幼稚園、保育園を入れたら、幼稚園の教員さん、保育士さんをみんな入れたら100万人いますので、そういう皆さんが、日常生活、日常の活動を取り戻すために、学校を再開するということが一番ポイントだということを今回改めて認識をいたしました。そういう意味では、子どもたちと向き合っていくことをやっていくためにも、教育大綱というのは大変大事だと思いますので、忌憚のない御意見をいただければというふうに思っております。

それでは、議事を進めてまいります。まず最初は、お手元の資料について、事務局から簡潔に説明をお願いします。

### 【県民生活部長】

御説明いたします。着座にて失礼します。お手元の資料1「次期「教育に関する大綱」の策定」についてでございます。まず左上の「1 現行の「教育に関する大綱」について」であります。現行の大綱は、本県の教育に関する目標や施策の根本となる方針として、2016年2月に策定したものでございます。囲みの中にございますように、「大綱」の対象年度は、2016年度から2020年度までの5年間となっております。基本理念を、「自らを高めること」と「社会に役立つこと」を基本的視点とした「あいちの人間像」の実現」といたしまして、五つの人間像を示しており、その実現のために「五つの基本的な取組の方向」を定めております。「大綱」の詳細につきましては、お手元の資料2のとおりでございます。

また、資料3といたしまして、第三次愛知県教育振興基本計画である「あいちの教育ビジョン2020」の概要をお配りしております。計画の期間は、大綱と同じく2016年度から2020年度までの5年間となっております。大綱と教育振興基本計画は、いずれも本県の教育の基本・根本となるものであり、整合性のとれたものにする必要があるため、基本理念の「あいちの人間像」を実現する五つの基本的な取組の方向は、共通なものとしております。

資料1にお戻りください。「2 次期「教育に関する大綱」の策定(案)」でございます。(1)の基本的な考え方であります。一つめの丸、現行の「大綱」の対象期間が本年度で終了いたしますので、本年度中に、次期「大綱」を策定してまいります。次に二つめの丸に

ございますように、現行の「大綱」と教育振興基本計画との関係と同様、次期計画の基本的な方針の部分を次期「大綱」と共通のものとするによりまして、両者の整合性をとりたいと思います。(2)の「大綱」の対象期間についても、次期「教育振興基本計画」と合わせて、2021年度からの5年間としたいと考えております。右側の一番上、(3)の策定スケジュールであります。まず、本日の第1回目の総合教育会議で、次期「大綱」の策定方法についての御協議をいただいた後、現行の「大綱」と教育を取り巻く課題について意見交換をお願いいたします。次に、本日頂戴した御意見を踏まえまして、今後、11月頃までに教育振興基本計画検討会議を3回開催いたしまして、協議・検討を行い、次期基本計画の素案を取りまとめまいります。その素案を踏まえまして、11月頃開催予定の第2回目の総合教育会議におきましては、次期「大綱」の素案について御協議をいただきたいと考えております。

その後、来年1月頃、第4回教育振興基本計画検討会議において、基本計画案を取りまとめ、2月に開催予定の第3回目の総合教育会議におきまして、最終的な御協議をいただき、次期「大綱」を策定してまいりたいと考えております。説明は、以上でございます。

#### 【知事】

次期「教育に関する大綱」の策定方法については、事務局から説明のありましたとおりであります。こういうふうに進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

御異議なしということでございますので、そのように進めさせていただきます。事務局の説明のとおり、知事部局と教育委員会が連携して本年度中に策定する次期「教育振興基本計画」の基本的な方針を次期「大綱」としていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、現行の「大綱」と教育を取り巻く課題につきまして、次期「大綱」の理念の参考とするため、御意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。それでは、順次、御発言をお願い申し上げます。

#### 【大須賀委員】

今日はですね、「大綱」の中で、各委員が「めざす「あいちの人間像」」について発言するということでありまして、私が「世界にはばたく」という人間像を切り口にして、知事の話の伺いたいなというふうに思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

「世界にはばたく」という言葉で連想するのは、やっぱりグローバル化とか、そういう言葉になるわけですけども、この会議のために、グローバルスタンダードの9月入学について質問がしたいなと思っていましたが、やはりコロナの真ただ中で、グローバル化だとかグローバルスタンダードとかいう言葉も、ずっと言われてきたこういう言葉を、言葉どおり受け取って良いのかどうかということが疑問になるくらい、言わば、コロナ前、

コロナ後という言葉、ビフォーコロナ、アフターコロナ、B. C.、A. C. と言うそうですが、そろそろグローバルスタンダードというものも、言葉どおり皆さんが共通認識を持てる簡単な世界ではなくなったなというふうに感じています。

特に、今、コロナの影響で、各国々が国境を閉鎖して、様々な形で、いわゆるグローバルに活動するということができなくなっている。しかも、国によってはどうか、超大国が自国第一主義を掲げて自分の国が良ければ良いというような極端な政策が少し進んでいるような感じがしています。そうは言いましても、やはりコロナというのは国境なく世界中をこれだけ騒がせているわけですし、サプライチェーンの問題も含めて、産業も、国境を封鎖して事が解決するなんて、誰しも考えているわけではないと思います。

もう一度9月入学の話に戻りますと、やはり教育というのは、子どもたちにとって、真っ先に学校閉鎖になりまして、教育を受ける権利というのが、長らくできないという状況が続いたわけですが、特に日本の場合は諸外国と比べて、デジタル化の遅れというのが非常に顕著でありまして、隣国の台湾や韓国と比べましても、相当、自宅学習や勉強ができないという状況下に置かれる期間が非常に長かった。自宅にいても通常どおりの教育を受けられる、通常に近い教育を受けられる国々がたくさんあったということを知っていますので、日本という国が、いかにITとかICTという分野で遅れていたかということもコロナが教えてくれたという気もしています。

ですから、少なくともそういう分野でも、コロナの前と後とでは全く取組が違ってくるのかなと私も思いますし、過去10年、15年、私の業界でも、e-Japan構想とかいうので、各手続きをインターネットで行おうという動きが、政府を始めとして各省庁がかなり推進していたような気がするのですが、実際にはほとんど進んでいなかったような気がしますし、現場の方が、「こういうふうに変えましょう」と言ってもですね、明日に変わるということはまずないなという今回の現実を見て改めて思ったんですけど、9月入学もそうですが、いろいろ議論して、各意見を聞いていけば、ほとんどの現場では、「こういう問題があります」、「ああいう問題があります」ということで、議論すればするほど、現場の難しい情報が上がってくる感じがしています。少なくとも、こういう不確定な時代というのは、従来どおりのことを繰り返してはいけないということは分かっているのですが、じゃあ、従来どおりではなくて、新しく一歩踏み出すにはどうしたら良いかということ、今回つくづくステイホームで考えていて、毎日テレビを見ているので、各国首脳がしゃべっていたり、知事さんがしゃべっているのもお聞きしましたがけれども、やはり、正しい方向性を出して、強いリーダーシップを発揮することがいかに大事かということ、改めて私は感じましたし、本当の正しいところというのは、究極の決断というのは、たぶん誰にも分からないし、どっちを選んだら本当は良いのかというのは難しいですが、日本型のコンセンサス型意思決定をしているうちに、どんどん時間が経ってしまった。

今、一番日本に欠けているグローバルスタンダードは何かというと、組織におけるスピ

ードとか決断の速さだと思うんですね。もちろん9月入学が話題になって消えてしまうまで、すごく早い時間だったなという思いはありますが、私の心の中では、まだまだ、私の母校の総長が議長になって議論を進めていくとおっしゃっていましたので、是非とも、コロナ後のグローバルスタンダードは、いったい何だろうかということ、きちっと見据えて、また、リーダーの方々には、勇気ある決断をしていただくようお願いしたいなという思いを持っておりますので、知事も是非とも前向きにこの問題についてお考えいただいたらありがたいと思っております。以上です。

### 【知事】

ありがとうございました。

委員の御発言を受けさせていただいて、私からも一言コメントさせていただければと思います。今、大須賀委員からお話がありました、グローバルスタンダードという観点からいたしますと、やはりデジタル化、デジタル教育への取組の遅れというのは、委員の御指摘のとおりだと思います。各方面からも言われております。

そういう意味で、もっともっと進めていかなければならないというふうに思います。そういう観点から、私も、今回、休校を受けてですね、やはり学習の遅れをなんとか取り戻すということを踏まえ、まずは県立高校で、スタディサプリというオンライン学習のソフトを来年3月まで6月から10か月間、愛知県内の高校生全員に受けってもらうということで、これは県が費用負担をして行うということにいたしました。また、7月以降は私学についても行うということにいたしました。

ですので、公立、私立合わせて7万人かな。20万強の子どもたちに受けってもらうということで、全部予算を執行しております。これは、大変、学校現場と言いますか、県立、私学の皆さまからも大変喜んでいただいております、これはしっかりと進めていければと思います。また、小学校・中学校においても更に活用をしていただけるようお願いができればと思います。

そして、様々なスピードが大事だということも、おっしゃるとおりだと思います。様々な取組をスピード感を持ってしっかりとやっていきたいというふうに思います。

また、小・中・高合わせてGIGAスクールということで、タブレットなどそうしたものの配付、また、学校のネット環境の整備をですね、今年度中にほぼほぼ進めるということで取組をしております。また、しっかりと進めていきたいと思います。

そして、9月入学については、私は、基本的にはグローバルスタンダードということで、いずれはそうした方向にかじを切る必要があるとは考えますが、やはり、これは非常に大きな影響を与えるということと、コストを誰が負担をしていくのかということ。それから、全部いっぺんに動かすとすると5か月遅れますので、新しい社会人が出てこないということ、経済界、社会がどういうふうになるのかということ、特に医療、今一番大事な医療関

係に5か月間新たなマンパワーが供給されないということが耐えられるかということを考えますとですね、今すぐというのは、それはそう簡単ではないと、そういうふうに思いますので。やはり、これはしっかりと、「えいやのえいっ」でやるものではありませんので、しっかりと議論をしていくことが必要だと思います。

また、教育の専門家の皆さまに聞きますと、国際的にはむしろ早めると、教育を始める年齢を遅らせるよりは早めると国際的にはなっているので、遅らせるのはおかしくないかという、圧倒的な多数がありますので、そういった点も踏まえ、御議論をいただければ。

まあ、小・中・高はそれほど。大学が9年前くらいですかね、東大が9月入学と言ったんだけど、全然誰も応援してくれなかったの、立ち消えになったという。大学だけでも9月に合わせたほうが良いんじゃないかという意見があると思うんです。小・中・高は今ままで良いのではないかという声もある。まあ、いろいろなパターンがあると思いますので、多くの皆さまの御議論が必要ではないかと。いずれにしても、コロナを克服すれば、引き続き国境のないグローバルな世界が広がっていくと思いますので、そうしたグローバルスタンダードを踏まえながら、しっかりと教育に対応していく必要があるというふうに思っております。そういう点もしっかり踏まえていきたいと思っております。ありがとうございました。

それでは、続きまして広沢委員お願いいたします。

#### 【広沢委員】

この教育ビジョン2020をいろいろと見ていくと、私ども教育委員の中では、これは大変よくできていて、基本的にいろいろと触る必要ないのかなというような話もしているわけですが、新しい状況で、いろいろなところで気になるところがありますので、そういったことについて触れていこうと思います。

一つめは、言わば、心の問題というのでしょうか。それこそコロナの感染者の方へ、医療や福祉関係者の方へ、直接または家族に対して、いろいろな心ない嫌がらせというのでしょうか、そういった報道があつて、大変悲しい思いをしているわけでございます。これまでも学校においては、教育を一生懸命にやってきたつもりでありますし、現にやっているわけですけれども、こういう状況が生まれると、やはり、まだまだ不足していたことがあったのではないかということも分かってくるわけですし、これまでと同様、更に、以上に、他者の尊重、人権意識といったようなもの、お互いを思いやるという気持ちだと思っておりますけれども、そういった心を育てることが大事な事かなと。このあたりは、再度、重要性を認識して、改めて触れていきたいなということを感じております。

二つめとしましては、環境の問題というのでしょうか。最近、マイクロプラスチックが海洋汚染をしていて大変な状況になっているという報道を何度か耳にしているわけでございます。更には、私の趣味に近い話になりますが、私は小さい頃から昆虫大好き人間でござ

ざいます。ところが、身近なところでも感じるのですが、昆虫がだいぶ減ってきているなど最近思っています。昔は当然見られたはずの虫たちが、最近いなくなったなどというようなこと。自分の身近でないということならば、それで良いのかもしれないですけども、どうもいろいろな報道を聞いたり調べたりしていきますと、世界的にも昆虫類が絶滅していくという傾向がだいぶ見えてきているといった話を聞きます。

また趣味の話になってしまいますが、私は鳥も見に行く人間なのですが、鳥たちは虫を食べて生活をしているわけで、虫が減るということは鳥も減るということでして、それで、小鳥がいなくなれば、それを狙う大きな鳥もいなくなるという悪い循環にどんどん入り込んでいってしまうというわけで、これを大変な問題と捉えなければ、最後には人類のほうへ話が向かってしまわないかなと思うわけであります。レジ袋の有料化であるとか、いろいろ世界も動き始めているということはもちろん知っているわけですが、子どもたちに対して、地球環境といったことについては、これまでも、私も学校現場におりました時には話をしてきた人間でありますけれども、また一つステップが変わってきた、そういうことを踏まえながら、具体的に指導していく、そういったことも重要ではないかなと感じております。

三つめは、先ほど出ましたので少し簡単にしますが、ICTの問題であります。最近、オンライン飲み会という言葉だとか、オンライン帰省だとか、在宅勤務はまだ聞いたことがあったのですが、オンライン飲み会というのは、ちょっと前には考えられなかった言葉ですが、今は、「やってみただけでなかなか良かったよ。」という言葉があったりして、状況が変わってきたなど感じるわけでございます。先ほどの話題のとおり、学校現場のオンライン教育の必要性が増している、これは申し上げるまでもないことだと思います。ここで私が触れておきたいと思っておりますのは、先ほどの知事さんのお話で、高等学校への配置が先になると、それで小中でもというお話だったですけども、小学校の低学年、特に1、2年でしょうか、3、4年も私は含めて良いような気がするのですが、そのあたりの子たちに対しては、果たしてオンラインで教えられることがどれだけあるのかと。一言で言えば、先生とか友達とかと接する中で得ていくものが大変多いのではないかと感じています。それこそ小学校1年生の子たちは最初学校へ入ってきて、「先生」と言う代わりに、「お父ちゃん」「お母ちゃん」と言ったりなんかしてやっているような、そんな段階の子たちですので、なかなか、画面の中ですべてということではないだろうと。もちろん、準備をしたら全部それを使うということではなくて、「緊急事態に」ということかもしれませんけれども、最初に申し上げた心の問題もあわせて、そういった部分も重要なことでありますので、コロナ対策は何年もかかってしまうかもしれませんが、今よりも、できれば少人数で子どもたちに対応できる、そういったことをすることで、今までどおりの教育が、ある程度低学年で進められないかなと感じているわけでございます。いろいろ申し上げましたが、今回私が思っていたのは、コロナの時代、コンピュータの時代になって

きたのかもしれないですが、そんな時代であるからこそ、子どもたちに一体何を教えていくのか、そういった姿勢で、教育というものは、これから進める必要がある。このあたりを「大綱」として、「めざす人間像」という言葉になるのかは分かりませんが、こういった部分でも何か検討を加えていく必要もあるかなと思いました。以上であります。

### 【知事】

ありがとうございました。まず、オンラインの関係から申し上げますと、最後おっしゃられたとおりでありまして、スタディサプリは小学4年生以上なんです。低学年は無理だということで、小学4年生から中・高まで、段階に応じて、学習の進捗とか難易度に応じて。コンテンツが4万もあるのかな、それをやはり小学校低学年にはないということでありまして、今おっしゃられるように、やはり、子どもたちの生活リズムの基礎というのがこれから形作られていくところであると思いますので、規則正しく学校へ行って、対面で先生方に指導していただいて、そういう規則正しい生活リズムを作っていくということだと思います。やはり、家庭だけでなく、学校で社会との初めて接点を得て、他人との交流、思いやり、そうしたものを形作っていくということが、何よりも代えがたい大事なことでありたいというふうに思います。

現に、今回の3か月の臨時休校の時もいろいろお聞きしましても、学校休めるから良いじゃんということではなく、ずっと家にいて、朝規則正しく起きて、ちゃんと午前中から机に向かって勉強するのとか言えば、しないとか。昼まで起きてこないということが続出したと聞いておりますけども、そうなっちゃいますよね、学校に行かなくて良いとなったら。なので、そこはですね、学校でしっかりと規則正しい生活を送るという意味で、そういった点は、しっかり見つめていく必要があると思います。

そして、ICT教育については、先ほど申し上げました、GIGA教育、GIGAスクール構想を更に進めていき、ネットワーク回線の増強、タブレット端末の整備等、そうしたものの準備は着実に進めていきたいというふうに思います。

そして、人権意識、いじめ問題等々については、広沢委員が御指摘のようにですね、今回のコロナに関連しても、また、最近のネット社会ということにあってもですね、大変悲しむべき、事件、事故、事案が増えているのが御案内のとおりだと思います。そうしたことがないように人権意識をしっかりと教育していく。また、他人への思いやりをしっかりと教育していくということが必要だというふうに思います。

日本は、ますますグローバル化をしていく、そして、デジタルの環境も進んでいくという中で、それを使う人間の心をしっかりとつくっていくということが必要だと思いますので、引き続き、その教育の役割というものは大変大事だというふうに思います。

我々としてもですね、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーをしっかりと学校に配置をし、そうした相談、いじめ防止対策にしっかりと取り組んでいきたいと思



います。

更に、環境でありますがおっしゃるとおりでありまして、プラスチックの問題、また、昆虫・生物。私ども愛知県は、2010年、ちょうど10年前に、生物多様性条約の国際会議をやりました。人、生きもの、そうしたものをしっかりと大事にするように、環境教育をですね、これは各学校で本当に、本当に一生懸命取り組んでいただいております。2014年にユネスコ会議がありまして、ユネスコスクールをどんどん作っていただいておりますが、本当に成果を上げているというふうに思います。また、各学校、各市町村教育委員会単位ですね、引き続き環境教育というものに取り組んでいただけるようお願いを申し上げたいというふうに思っております。ありがとうございました。

それでは、続きまして伊藤委員から御発言をお願いします。

### 【伊藤委員】

よろしくお願いいたします。私はこの「めざす「あいちの人間像」」の中の、「自分を生かす」という項目を担当させていただいております。

まず、教育の目的というのは、子どもたちに勉強してもらうことだと思いました。それが、この「めざす「あいちの人間像」五つの柱」の、どこに書いてあるんだろう、どこに当てはめれば良いんだろうということを、初めに考えました。そして、まさに「自分を生かす」項目がこれに合致すると考えました。やはり、「自分を生かせる」人生を目指すというのは、結局、しっかりと基礎学力をつけて、応用力や知識、技術を磨いていくということがまずあって、そうして学校を出られた後で、自分の活躍する場所や、夢を見つける、或いは自分の居場所を見つけて、そこで幸せに生きるということだと思えます。教育を受けるとものの見え方が変わります。教育の目的はそこにあって、学校に入る前と後で別の人間になってもらうという、そういうことがとても大事な目的だと考えます。

そこで、そのために私たちがしなければいけないことというのは、とても地味で、根気の要る仕事です。たとえば、コロナで学校が休みの間、なかなか子どもたちは勉強が進みませんでした。やっぱり知事さんがさっき仰ったとおり、学校に毎日通うリズムの中で、体で覚えて学習をするということが本当に大切で、それが崩れてしまった時に、小学校低学年などは、課題を渡されても、どこから手を付けるかも分かりません。そばにいる大人が少し道筋をつけてあげられればうまくいくのですけれども、なかなかこちらが思い描いているようには進まなかったということが、あちこちで起きていました。そこで、先ほどの教育の目的を実現するために、私たちがすべきことは、非常に地味なことと言いますか、確かな学力を育成していくと申しまして、今、目の前にあるのは、その休校の間にできてしまった漏れやほころび、そういうものを一生懸命、直しながら戻していくという作業だと思えます。

実際2週間ほど前に、小学生の子どもに、「今、算数で何をやっているの」と聞いたら、

「今はお休み」と答えました。遅れている子を先生が見てあげるために、課題ができている子を待たせて、先に進めることができないという状況が起きています。

このように、子どもも家庭もまだストレスがあると思いますし、先生方も、今までにない仕事、今までにない手の尽くし方をしなければいけないというところにきていて大変です。お一人でのクラス担任もこれまでになく重い御負担かもしれませんし、遅れている子やできていない子のギャップがこれまでになく大きいかもしれないという現状があるように思います。このような状況に少し心配りを、目配りをしていく必要があると考えます。

もう一つ私たちが今、コロナ禍で見なければいけないのは、生活環境や経済環境が激変している御家庭があって、その家庭環境の変化に起因して、子どもたちの学ぶ機会や持続する機会が奪われないように、守っていかなければいけないという点です。私の勤めている大学で、授業料延納願いを出すケースが、4月から例年になく増えています。ところが、延納願いを出して、同時に、他の経済的な支援や学習支援に申請書を出すというケースはまだ少ないんです。もし延納願いを出すなら、そういったサポートを受けるということと同時にすれば良いんですが、「延納願いを出していればそのうち払えるようになる」と漠然と信じ、「まさか自分がこういうことになると思っていない」学生が多く、そして、そういう人に困難な状況が降りかかってくるんです。リーマンの時も、リーマンショックが9月に起きて、その3か月後に、派遣社員の人たちが住むところを失う問題が一度に起きました。覚えていらっしゃると思いますけども、これを受けて年越し派遣村というのが年末にできました。今が緊急事態宣言後の3か月ということで、経済的な状況が厳しくなってくるという御家庭がこれから出てくる、これからもっと出てくるかもしれないと考えられます。その時に、派遣先で住宅提供されている方の中には、外国籍の方も多いと思いますので、日本語の支援が必要な子どもさんに対して経済的な困窮というハードルが加わるということも、この先、考慮しておかなければいけないことです。あいちの教育大綱の話からしますと、「自分を生かす」という項目でお話するには、近視眼的と言いますか、当面のお話ですけれども、一番やらなければいけないことは、このように、実はとても地味なことです。教育を、教育行政をきちんとしていく。子ども一人一人の学力を確かに育成していくということは、結局そういうことかと考えております。

知事さんの考えをお聞かせいただけたらと思います。

### 【知事】

ありがとうございます。子どもたち一人一人の学力をですね、育成していくというのは非常に大事なことでありますが、その中で、現在の新型コロナウイルスの状況で、子どもたちも家庭のストレスを抱えて、そういった子どもたちにどのように向き合っていくか、どういうふうに教育環境を作っていくかというのは、大変大事な御指摘だというふうに思います。

そういう意味で、今もまた、改めて少人数学級を更に進めるという議論が国のほうでも進められています。これは大変良いことだと思います。徐々に少人数学級が進んできたということではありますが、やはり、国際的に見ても日本の1クラスは多いという実態なので、できるだけですね。どちらかという、今の議論は学校の教室をもっと密にならないようにするにはという、そっちの議論からきているので、ちょっと別の観点かなという気がします。それはそれとしてですね、更に少人数学級で進めていくというのは、そういう方向で進めていくというのは、大変良いことだというふうに思いますので、しっかりと進めていければと。まずは、35人学級をもうちょっと広めていけるような努力はしたいというふうに思っております。

そして、子どもたち一人一人の学力をどう伸ばしていくか、これについては、今は学校だけではなくて、いろんな塾に行つてどうのこうのという話がありますが、やはり、基本的な学力を作るというのは、学校教育の役割だと思いますので、そういうきめ細かな学習対応をしっかりとやっていけるように進めていく必要があるというふうに思います。そういう意味で、外国籍の子どもたちの日本語教育だとかですね、そういうものにもしっかりと取り組んで進めていきたいと思ひますし、特別支援学級の支援、そういったものもきめ細かくやっていきたいというふうに思っております。

そして、後半にありましたように、新型コロナの影響で経済状況が大変厳しい状況になり、授業料の減免とか聞いておりますが、そういった状況に対してもですね、きめ細かく対応できるように、給付金だとか支援、そうしたものにはしっかりと目配せをして取り組んでいきたいというふうに思ひますし、また、学校の臨時休校などにより子どもたちの学習に遅れが生じないように、状況に応じた対応をしていきたいというふうに思ひます。そういうことで、引き続き、きめ細やかな対応をしていく必要があるというふうに思っております。

先ほど伊藤委員がおっしゃられましたように、リーマンショックの後に、東京日比谷公園に年越し派遣村ができた、ちょうど私はその現場にいましたので、あの時のことを如実に覚えておりますけれども、まさか日本でこういう事態が起きるとはという思いでありました。その時と状況は違うということはやはりあると思ひますが、同じような状況が出ていると。あの時は、製造業を中心にグローバル企業が直撃をされたわけではありますが、今回はむしろ内需型の産業が直撃を受けていると。観光、レジャー、飲食に宿泊、ホテル、イベント、コンサート、そういったところですね。そういった意味では、個別の業種、業態にもきめ細やかな対応をして、今やっているところではありますが、子どもたちへの対応についてもですね、きめ細かく対応をしていきたいというふうに思っております。そのためには、やはりですね、学校を5月25日から再開させていただきましたが、夏休みは半分ぐらいになってしまったと思ひますが、この夏はですね、皆様には大変御苦勞をおかけしますが、ほぼほぼ空調はできてる、そういったことも含めてですね、この7月、8月御

苦勞をおかけすると思いますが、学習を取り戻すためにもしっかりとよろしく願いを申し上げます。引き続きよろしく申し上げます。ありがとうございました。

それでは、続きまして、佐々委員よろしく申し上げます。

#### 【佐々委員】

私は「あいちの人間像」の中の「あいちを創る」というところのお話をさせていただきたいと思います。今回のコロナ禍におきまして、非常に閉塞感と言いますか、教職員の皆様の多忙化であるとか、子どもたちが自殺をしたりとか、そういった教育における閉塞感というのを非常に感じております。

「人を創る」というのが「あいちを創る」、「国を創る」ということの根幹だというふうに思うわけですが、そうした閉塞感が漂っている今、教育のあり方の再構築をする時ではないかなというふうに考えております。

その中で、少し前に読んだ本なんですけども、知事も御存知かと思いますが、麴町中学校の工藤勇一さんの書かれた「学校の「当たり前」をやめた。」という本の中で、固定担任制の話ですとか、定期考査の廃止、そんないろいろ革新的な取り組みのことが書かれておまして、非常に良い成果を出されている。そういったことが良いかどうかは別として、やはりそういった既存の枠っていうものが、教育の中には非常にあるように感じます。

そういったものを、こうした、教育を見直すこの機会に、いろんな既存の枠にとらわれなくて、常識やタブーとかも打ち破ってですね、子どもたちが本当に良い未来を生きるために、子どもたちに何が必要なのかっていうことを考えて、そうした取組をしたらどうかと、私は非常に強く思っております。

大村知事はどういうふうに、そのあたりをお考えになるのか、お聞かせ願えたらというふうに思います。

#### 【知事】

直接答えになるかどうかはあれでございまして、「あいちを創る」、「新たな価値を見出す」ということ、そして、今言われましたですね、様々な既成観念と言いますか、それにとらわれずに、いろんなことに取り組む、チャレンジしていくというのは大変大事なことだというふうに思います。先ほどからずっと申し上げておりますが、世の中どんどんグローバル化とデジタル化が進んでですね、社会がどんどん変わっていく。それに合わせて、やはり基からある人間像、社会人像と言いますかね、更に、基本的にみんな社会に出て、いろんな仕事をしてやっていくという職業人として生きていくわけではありますが、それに求められる職業像というものも変わっていくと思います。ですから、やはり基礎的な学力、基礎的な人間像というものは学ばなければいけません、やはり時代に合わせてですね、いろんな取組、既成観念にとらわれずに、挑戦していく、チャレンジしていく、取り

組んでいくというのは、非常に大切なことだというふうに思います。そういうことですね、それぞれに学校現場で工夫していただいて、取り組んでいただくということが、これからも求められていくんだろうというふうに思います。

そして、「あいちを創る」というのはですね、やはりこの地域の歴史、伝統、文化をしっかり学びながら、未来に向かって挑戦していくということが、私は「あいちの人間像」だというふうに思いますので、それぞれ子どもたちにもまた身に付けていただければありがたいなと思いますので。愛知県は、有数の日本を引っ張る産業県でもありますし、我々は子どもの時代からすれば考えられないぐらい国際色豊かな、進んでいる、愛知県の企業さんで、国際取引がない企業さんは、内需型、サービス型の産業は別にして本当に少ないと思います。グローバル化にどんどん巻き込まれていると言いますか、どんどん進出していくというわけでありますので、そういった点でもですね、世界に目を開いていく、そして、多様性があるということを学んで、人は一人一人違って当たり前だよということですね、人は一人一人みんな違うんだけど、相手のことを思いやっていかなければならない、相手の立場を思いやり、個性を思いやり、やっていくということを手につけていただければ、いじめとかそういうこともなくなっていくんじゃないのかなと思いますし、そういった中で、自分の伸ばすべきところ、自分の目指すべきところ、自分の特徴、個性は何だろうということ、個性を伸ばしていく、引き出していただけるような取組、それから、学校の先生方の子どもたちの個性を伸ばしていく、引き出していただけるような教育を是非お願いできればありがたいなとそんなふうに思います。愛知県は広いので、それぞれ、地域にも特徴があるんです。地域の特徴、特色、アイデンティティをですね、生かしていただくようなそういった取組をお願いできればというふうに思っております。ありがとうございました。

それでは、塩谷委員、よろしく願いいたします。

#### 【塩谷委員】

大村知事、お会いできるのを楽しみにしておりました。非常にお忙しいと思いますけれども、先日ある方から、全国でも、大村知事はトップクラスに入るほど働いていらっしゃるというお話をお聞きしまして、どうか御自愛くださいませ。

そこで、すいません、単刀直入にお願いいたします。是非とも教育に、予算をかけていただきたいなと思います。

この世の中、本当に先が見えないので、全く今までとは違い、計画が立てられないと思うんです。もちろん今のこの時代に、社会福祉だとか医療だとか、もちろん経済の方も大切なことは分かるんですけども、未来を見据えて、絶対裏切らないものっていうのは人だと思うんですね。そこに、教育にお金をかけるっていうことは絶対 100%間違いはないと思うんです。私の担当としては、「学び続ける」ということだったんですけども、すいま

せん、自分のことですが、プロゴルファーとして生活しておりますが、もうトーナメントプロとしては稼げません。でも、人を育てる、教える、コーチングというものを、それから、ゴルフ場経営というものについては、今も学び続けています。これらは深く学ばないと、とても前に進めないということが、最近本当に分かりました。薄っぺらな知識だけではとても前には進めない。

学校の先生も、今いろんな情報を簡単に子どもたちも手に入れることができ、知識を学ぶことができる中で、先生がもっと深く、専門的に分かっていないと、子どもたちもそれを受け入れることはできないのではないかなと思うんです。

今の教師の、先生方の働き方を見ていると、それを学ぶことができないのではないかな。子どもたちよりも、もっと先生には学ばなければいけないことがたくさんあるのに、それをするためには時間がなさすぎると思うんですね。ですから、もっと専門的な分野を、以前も知事をお願いしましたけれども、増やしていただいて、本来あるべき教師の求められるものっていうものを、もっと追求していけるような環境を整えてもらいたいなと思います。

各教育委員や事務局の方からいろいろお話をいただくと、すごくたくさん良いアイデアを持っていらっしゃるのに、なかなか前に進めないのは、すいません、正直言って、予算がないからだと思います。そのあたりをぜひとも、知事の立場から、非常に難しいとは思いますが、本当にたくさんの方を、一度に考えられなければいけないので、非常に難しいことだとは思いますが、是非とも、未来の10年後20年後の子どもたちが、社会を引っ張っていく頃にどうなっているかを考えると、今、やはり投資すべきものは人だと私は思います。そのあたり、いかがでしょうか。

#### 【知事】

はい。ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。やはり、世の中を形作っているのは、なんと言っても全部人、人間が形作っているものですから、そういう意味で、人への投資というのが一番効果があるというのはおっしゃるとおりだと思います。そういう人材を育成する、人材を育てるといって教育に、私どもしっかりと取り組んでいかなければならないというふうに思います。もちろん予算の限りの中ではございますが、おっしゃられた御意見をしっかりと受け止めて、教育の予算の拡充と、メリハリを付けてしっかりやっていきたいというふうに思います。

それから、生涯学習と言われていますが、おっしゃるとおりで、常に学び続けるというのは、世の中どんどん変わっていきますのでね。とにかく常に常に学んで勉強していくというのがいかに大事かという、自分自身もずっと考えさせられることだなというふうに思います。10年前、国会議員をずっとやっていましたので、やっぱり全然変わってしまうんですね、世の中も変わるし、政策も課題も変わるし、いろんなことが変わっていく。それ

から、処方箋も変わっていく。常に学ばなければならないということだと思っております。それは、どういう職業の方でも一緒だと思いますのでね。それは、年代がいくつになっても一緒じゃないかと。20代なら20代なりの、30代なら30代なりの、50代、60代、70代、80代になってもずっと。人間は常に学ぶ、勉強するということが必要ではないかなと思っております。勉強するという姿勢から、私は謙虚さと他人を思いやる心が生まれてくるのだろうというふうに思います。

この間、マレーシアのマハティールさんが93歳で、選挙を経て首相に返り咲いたと。その時に言われた言葉がですね、「人間の臓器は必ず年をとっていくけれど、唯一年をとらない臓器が脳みそだ」と。「脳だけは何歳になっても使えば使うだけですね、これは刺激を受けて覚えていくんだ」と。全くそのとおりだというふうに思います。そういう意味で、やはり常に学び続けるというのは大事だと思います。委員が言われたように、やっぱり、学校の先生方は忙しすぎて、学びで自分の専攻分野を生かせないという。これは、我々にとって耳の痛い話でありまして。やはり、常に中学校高校の先生方はそれぞれの専門分野で、小学校の先生はオールマイティで教えられるということかもしれませんが、それにしてもやはり、専門分野がありますので、専門分野を磨いていただけるような環境を、ずっと学校の先生方も学び続けられる環境を我々も整備をしていかなければならないということは、本当におっしゃるとおりだなというふうに思います。考えますとですね、何か思い出すとですね、昔、私の高校時代、高校の社会の地理の先生が自分の好きなところ、好きな知識ばかりを半年ぐらいずっとそれをやって、後はおまえら勉強しとけという、いましたけどね、昔は。そんなもん知らんと。世界中のことはお前らが教科書で勉強しとけという、そういう人いましたけど。そういう人が今いなくなったかどうかは分かりませんが。たぶんそういうのを今は許してくれない時代だと思いますが、それでも良いじゃないかと思っておりますね。専門分野をどんどん先生方が伸ばしていくということを、それを子どもたちが見ていけば、それも一つありだなと思ってもらうことは良いことじゃないかなと思っております。そのあたりもまた、多忙化解消も含めて取り組んでいければというふうに思います。ありがとうございました。

それでは、全体を通して御意見がありましたらお聞きしたいと思っておりますが、教育長いかがですか。

#### 【大須賀委員】

ちょっとまだ時間がありそうなので、塩谷委員の話の続きになるんですが、「大綱」はどれか一つとっても無駄なものはないし、素晴らしいことを積み上げてつくられていると思うんですが、今のお話のように、本当に先生方真面目な方が多くて、学校現場で、文科省とか様々な提案がされて、この資料だけでも相当なものだと思いますが、現場の先生方の忙しさは、皆さん御承知のとおりで、どうしたら良いだろうかというのは、一つは、予算

をかけて、一人でやっていることを三人でやるとかそういう方向。それが、スクールロイヤーとか、様々な専門家という考えにも出ているんですが、少なくとも先生方がやっていることで無駄なことは一つもないし、悪いことは一つもやっていないんだけど、やっぱり、これを止めなさい、これはやらなくて良いとか、今の知事のお言葉どおり、僕たちの若い頃の教師は、本当にこの人が教師かというくらい、自分の好き勝手な授業を一年間ずっとやっている。ほとんど、時間の半分ぐらい雑談で終わっているような先生がとても人気ありましたが、いろんな先生に巡り会うというのが、子どもたちにとってとても大事なんですが、どれだけの知識を教えこむのかということは、だんだんちょっと考えを変えてですね、先生たちからどれだけのものを奪ってあげられるか、これしなくて良い、あれしなくて良いということをどれだけつくっていくのかという、断捨離とよく言いますが、人間のキャパシティというものは決まっているので。先生のキャパも、これをやらなきゃいけない、あれをやらなきゃいけない、様々なことをやらなくてはいけなくて、ノイローゼのようになって辞めていく先生が山のようにいるのでは、本当にまずいなというふうに思いますので、是非とも指針を示して、さっきも言ったように、本当に先生たち学ぶことがものすごくたくさんあって、学んでいけないとついていけないので。本当に先生にとって必要なものは何か、コロナのことで、先生たちがテーブルの消毒をして、先生たちが子どもが手を洗うのを見て、いろんなことを全部先生がやっているんですけど、果たして本当に先生しかできないことは何だろうということをもう一度お考えいただいて、職場の教師の方々が、負担がないようにしていただけたらありがたいと思います。そのためにはまた、予算のことになりますが、是非ともそこはお願いしたいと思います。

#### 【知事】

ありがとうございました。他に御意見ありますか。よろしいですか。

それでは、全体を通しまして、教育長いかがでございますか。

#### 【教育長】

本日の会議において、現行の「教育振興基本計画」と同様に、次期「教育振興基本計画」の基本的な方針の部分で次期「大綱」とすることについて御了解をいただきました。

これまで、現行の「教育振興基本計画」に基づき、様々な取組を実施してまいりましたが、子どもたちを取り巻く環境は、今後ますます、大きくかつ急速に変化していくことが予想されます。確かな学力や健やかな心と体の育成、いじめや不登校を始めとする児童生徒の生徒指導上の問題といった課題のほか、ICT教育、外国人児童生徒への教育、学校における働き方改革など、新たな課題への対応が必要となっています。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえて導入された「学校の新しい生活様式」への対応や、ICTを活用した新たな教育システムなど、感染症拡大等の緊急時であって



も、子どもたちの学習の機会を確保していくことが求められています。

このように、社会全体が大きく変動していく中で、知事と教育委員会が一体となって、次期「教育振興基本計画」を策定していくことは、大変意義のあることだと考えております。

総合教育会議における協議を十分に踏まえながら次期「教育振興計画」を策定し、本県の教育の更なる充実を図ってまいりたいと考えております。

### 【知事】

有意義な御意見をたくさんいただきまして、大変ありがとうございました。本日いただきました御意見と、今後、開催される教育振興基本計画検討会議の議論を踏まえまして、次期「大綱」の策定を進めてまいりたいと考えております。

大綱の検討と言いますか、5年経ってということですが、現在の様々な課題、置かれている地域を考えて、検討していくということになりますが、「めざす「あいちの人間像」という基本が変わることはないだろうと思いますが、時代に合わせて、やっぱり少しそこはバージョンアップをしていければなというふうに思います。それが一点と、やはり、新型コロナウイルスの関係で、3か月臨時休校するという未曾有の経験を経て、改めて、学校教育がいかに子どもたちの学習だけではなく、人間形成と学習にとっていかに大事かということですね、多くの皆さんに御認識をいただけたのではないかとこのように思います。やはり、日常生活を取り戻す、社会経済活動を再開する上において、学校教育が一番基本のベースになるということも、多くの皆さんに御理解、御認識をいただけたのではないかと思います。

そういう点で、今回の経験を経ての「大綱」の見直しというのは、大変意義があるものだと思いますので、どうかまた今年度を通してですね、様々な御意見、御議論をいただいて、また、よろしくお願ひしたいと思ひます。

なお、7月の高校の甲子園大会は中止になってしまいましたが、愛知県の高校野球大会は、今、各地区で熱戦が展開されて、土日だけですけどね。今年は学習を取り戻さないといかんで、平日は休んどっちゃいかんで、大変盛り上がっていると思ひますね。残念ながら無観客ですけどね。無観客というか保護者と部員。本当は、同級生ぐらい入れてあげても良いんじゃないかと個人的には思わんでもありませんが。

やっぱり、2年半打ち込んできた部活最後の集大成をやれるということで、子どもたちの気持ちの部分で張りが出てきて、だったら変な病気にかかるとしたら試合に出れへんぞと言ったらですね、みんなに迷惑をかけるから、一生懸命手洗いするし。そういうもんだと思ひます。日常生活に張りが出てくると思ひますので。そういったことも含めて、やはり、今回のコロナを乗り越えるということが、子どもたちにとっても成長にもつながると思ひますので、そういったことも踏まえて、今回の「大綱」作りを何卒よろしくお願ひ申

し上げたいと思います。

以上で、愛知県総合教育会議を閉会といたします。今日はどうもありがとうございました。